

第1章 津波と未曾有

「未曾有」という言葉／「人は忘れる」という大原則がある／「失敗学」と「津波」／津波を物理現象としてみる／津波に「対抗する」のか「備える」のか／対抗思想の背景にあるもの／田老地区の二つの防潮堤／先人の知恵／防波堤の効果／備えて逃げる／逃げなかつた高齢者と逃げられなかつた介護者／「情」と「職業倫理」が判断を狂わせる／横のつながりで助け合う／奥尻島の現状に学ぶ／信玄堤に見る「いなす」「すかす」思想／それでも人は海岸に住む／記憶を少しでもとどめるために

「原子力村」のお粗末ぶり／「想定外」という言葉／「想定」について考える／コン・プラ
イアンスの意図的誤訳／「見たくないものは見えない」「聞きたくないことは聞こえない」
／過去の失敗に学べなかつた東電／津波のデータも「見たくないものは見えない」／組織
事故という考え方／絶対安全の虚構／批判への違和感／事故調査についての考え方／忘れ
去られた技術の系譜／地震国日本における想定／原発はなぜ必要だったのか／技術の成熟
には失敗の積み重ねが必要／本質安全で設計できるか／リスクとベネフィット／これから
の選択

第3章 日本で生きるということ

151

自然災害は日本の必然／日本は北と西に分断されている／崩れを止める人々／災害を減ら
すための日々の努力／満濃池以来のダム決壊について思つたこと／「ハッ場ダム」「スー

「一堤防」について考える／首都圏水没の可能性／歴史は繰り返す、自然災害もまた／日本人を日本人たらしめてきたもの／日

おわりに

